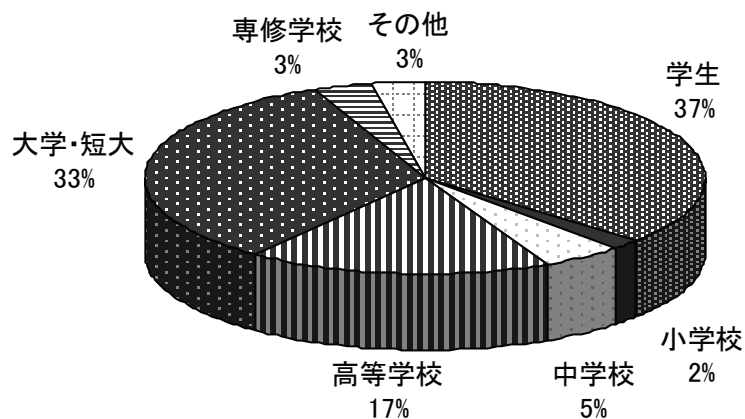


第34回 全国英語教育学会 東京研究大会 アンケート結果

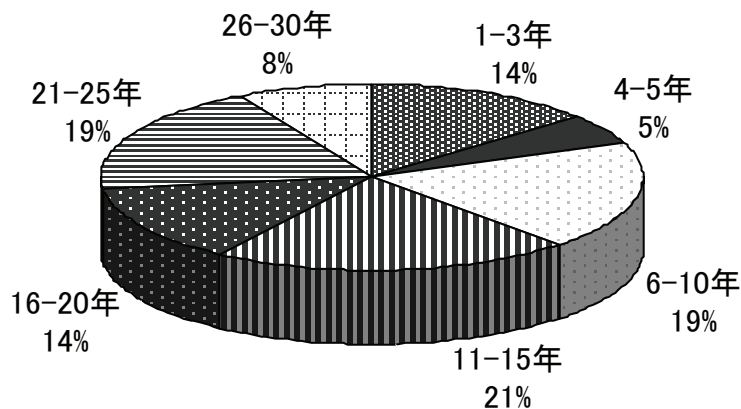
■本アンケートは、ご覧の63名の方々（回答率7.5%）よりご協力いただきました。

(1) 回答にご協力くださった方々のお勤め先・ご所属



その他（人数）：教育委員会（1）、出版社（1）

・回答にご協力くださった先生方の教職経験年数

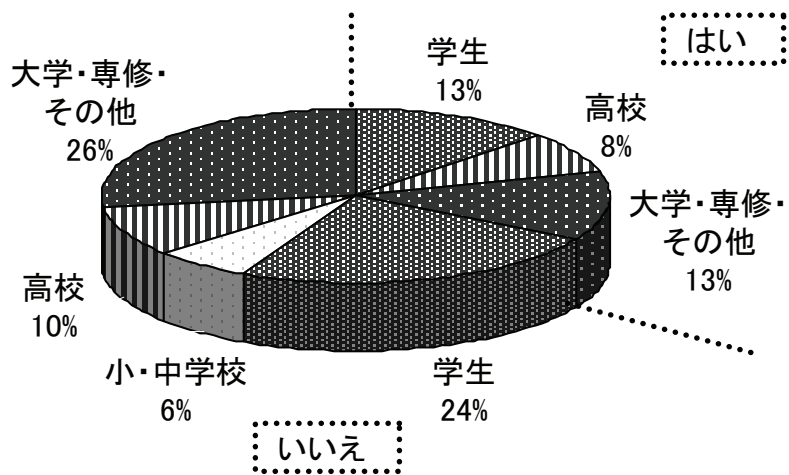


寸評：

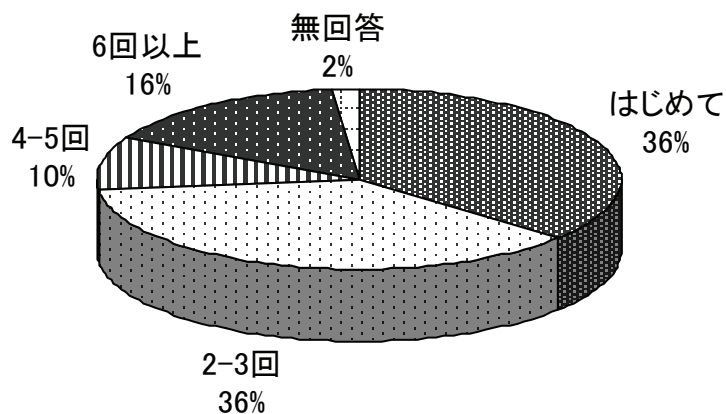
アンケートの回答をお寄せ頂いた限りでは、大学・短大の教員が最も多く、大学院生・学部生と合わせて7割を占めました。次いで高等学校からお越しの先生方が多いとみられます。教職経験の内訳では、特定の層に偏ることなく回答を頂けたとみられます。

(2) 当大会への参加について。

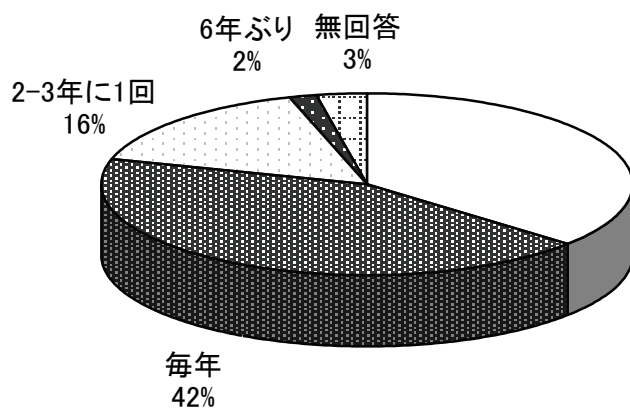
- ・自由研究発表，または実践報告をされましたか。



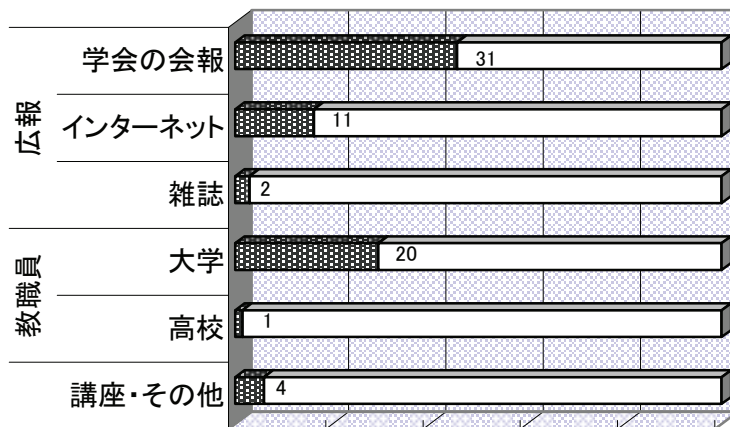
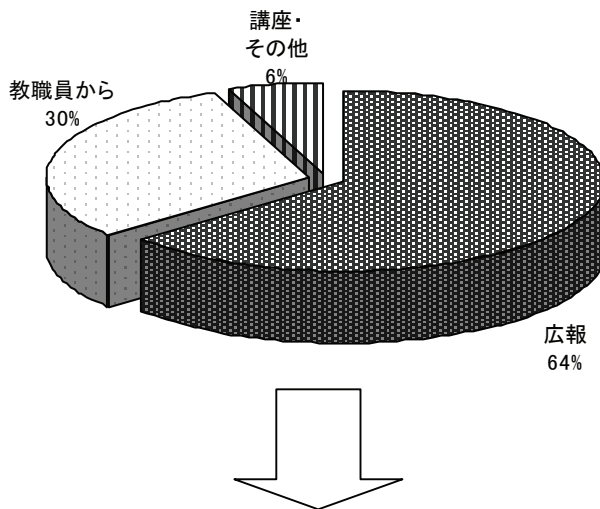
- ・全国英語教育学会の研究大会にお越しいただいたのは，今年で何回目ですか。



- ・(2回以上お越しの方に質問) どのくらいの頻度でいらしてですか。



・第34回東京研究大会は、どのようにしてお知りになりましたか。(複数回答あり)



その他: 教員以外の知人から (1)

複数回答により人数で表示

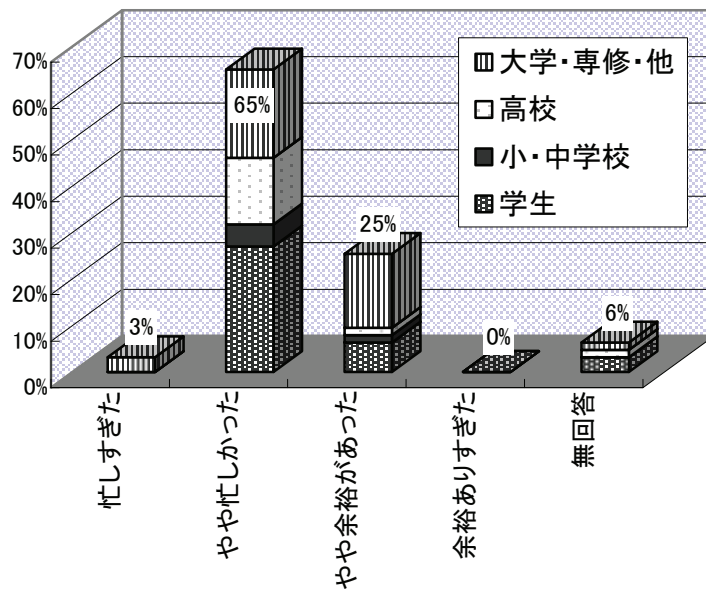
寸評:

参加目的の内訳では、発表・報告を兼ねて来られた方と、視聴のみの方で、およそ1:2の比率でした。回答を頂いた人数にも比例し、大学教員(専修学校・企業含む)と大学院生の発表者がともに多く、次いで高等学校の先生方が多いという状況でした。視聴のみの参加が多いとみられる背景には、アンケートの回収状況ではじめて参加された方からの回答が3割強を占めることも考えられます。参加の頻度からは、2年目以降も継続してお越しになられる方が圧倒的に多く、約4割を占めていました。

研究大会を知って頂く手段としては、既に各地区学会へ入会された方が会報を見て、インターネットで確認されるケースが多い模様です。しかしながら、現状で未入会の方々に研究大会を知って頂く機会は少なく、大学の先生方からの紹介が大きいようです。

(3) プログラム, タイムテーブルについて。

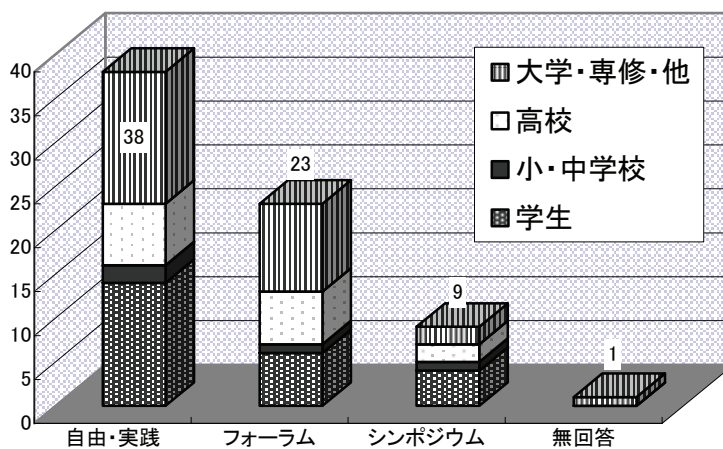
・タイムテーブルはいかがでしたか。



参加回数	忙しすぎた	やや忙しかった	やや余裕があった	余裕がありすぎた	小計
はじめて	1 (4)	18 (78)	3 (13)	0 (0)	23
2-3 回	0 (0)	16 (70)	5 (21)	0 (0)	23
4-5 回	0 (0)	3 (50)	3 (50)	0 (0)	6
6 回以上	1 (10)	3 (30)	5 (50)	0 (0)	10
無回答					1

(数字) は%で表示

・プログラムで一番, 興味・関心を引いたものは何でしたか。



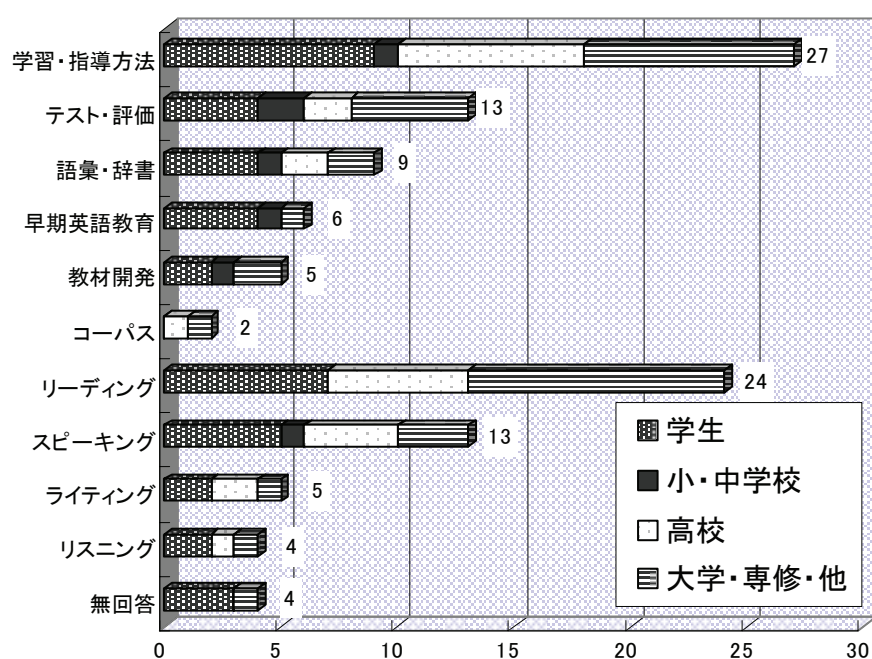
複数回答により人数で表示

寸評：

例年とほぼ変わらないタイムテーブルで東京研究大会も進行し、全体的には「やや忙しい」と感じる方が大半を占める中、長年お越しの先生方等からは、「やや余裕」も散見されました。「発表件数と日数との関係でやむを得ない」等の自由記述がみられ、現状を映し出した意見といえるかもしれません。

プログラムでは、「自由研究発表・実践報告」に多くの関心が集まり、「課題研究フォーラム・問題別討論会」が次いで多くの票を集めました。

・どのようなテーマに、興味・関心を持たれましたか。(複数回答あり)



その他：E-learning (1), 国際語としての英語 (1), 言語理解度 (1), 音読 (1), コミュニケーション (1), シャドーイング (1), 第二言語習得 (1), 多読指導 (1), 発音関係 (1), リメディアル (1)

複数回答により人数で表示

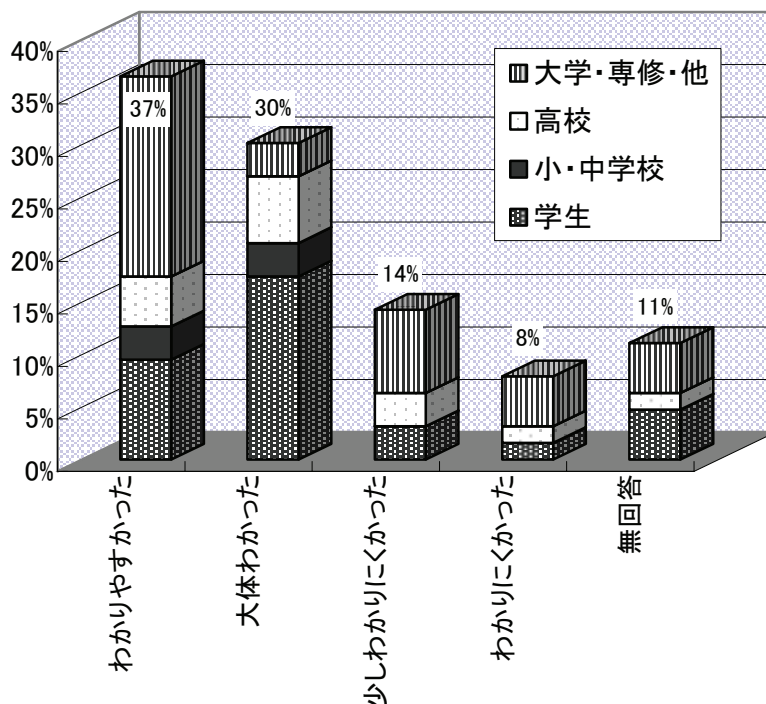
寸評：

「学習・指導方法」は現場を中心に関心が高く、次いで「テスト・評価」が票を多く集めました。技能別では、「リーディング」への票が最も多く、次いで「スピーキング」に関心が寄せられました。

現場と研究・学校の種別等、回答者層により関心の集まるテーマに多少の変化はありましたが、全ての項目に回答が寄せられた点が、幅広い分野を扱う本学会の特色といえるでしょう。

(4) 大会運営について。

- ・会場の案内図，キャンパス内の掲示，誘導係



寸評：

概ね好意的な評価を頂きました。ただし、「お弁当の配膳場所」がわかりづらい、「大学で固有の教室番号が不慣れで困った」等の意見もありました。次回以降に向けて、更なる標示・案内の改善に参考となれば幸いです。

■自由記述からは下記のようなご回答を頂きました。

発表方式と、会場・設備に向けられたご意見が多くを占めました。(数字)は人数)

(5) その他、大局的なご意見等がございましたら、具体的にお書き下さい。

発表方式・内容について

- 発表で司会を置かなかったのは、効率的でよかった (2)
- 発表時間を守らず、質問できない人がいて困った (2)
- あまり質問できず、発表者にはスムーズな応答を考えて欲しかった
- 聞きたい発表の時間が重なるのが残念である (3)
- しゃべる速さ、説明箇所の示唆等、発表者はわかりやすさに努めて欲しい
- 予稿集と違う発表手順は改めて欲しい
- 自由研究発表・実践報告の時間が短い

自由研究発表・実践報告の数を絞り、もっと個々の発表時間を確保した方がよい
発表数の多さから、ポスター発表を採用してもよいかもしれない
自由研究発表・実践報告の追加資料がなかった・用意してきて欲しい 等 (4)
自由研究発表・実践報告をフォーラムの時間裏にも入れて欲しい
課題研究フォーラム, 問題別討論会のテーマ設定は適切か

会場・設備について

発表が全て1つの建物で聞けた点がよかった
受付と発表の場が離れすぎている。もう少し近くしてほしい
発表会場・グリーンホールは、冷房を少し控えめにした方がよかった
賛助会員の方々のためにも、通路・展示スペースにも冷房があるとよかった (3)
展示の位置がわかりづらかった
トイレの問題で、女子大ではしない方がいいと思った
インターネットが使える環境・施設(ジャック)がほしい

その他

受付やタイムキーパーの態度が良くなかった(机に肘を突けたまま・うつ伏せた姿勢等)
スケジュールが過密、休憩5分ではトイレにも行けない (2)
予稿集に部屋ごとの発表キーワードを載せて欲しかった
ARELE は日本語論文を実践報告に限るが、研究論文も英・日両方あっていいように思う